

大麦赤かび病の防除は必ず2回行いましょう。

赤かび病による被害粒が10,000粒中に5粒以上混入すると出荷停止になります。赤かび病はムギの開花期頃に気温が高く雨が続くと多発します。今年の4～5月の気温は高く、降水量は多い予想で、**赤かび病多発の恐れ**があります。

1 防除時期について

●本年は、大麦の生育が大幅に早くなっています。

1回目の防除が遅れないように準備をしましょう。

**1回目は開花始め（出穂5日後ころ）
2回目は1回目の10日後です。**

●圃場をこまめに巡回しムギの開花状況を確認し、適期防除を行いましょう。

●感染後は効果がおとるので予防防除に努めましょう。

●液剤のほうが粉剤より効果が高くなります。

【液剤の散布量は10a当たり100L散布します（無人ヘリ散布を除く）。粉剤は穂が濡れている早朝に散布すると効果が高くなります。】

※1回目の防除適期は平野部で4月12日前後、山間部では4月20日前後と思われませんが、地域や今後の気候で変わります。

くわしくは管内の農林総合事務所やJAにお尋ねください。



農薬の安全使用に努めて適期防除しよう

農薬の飛散に注意しましょう

2 防除薬剤

薬剤名	登録作物	希釈倍率	使用量	使用時期	使用回数	散布方法
トップジンM粉剤DL	麦類（小麦を除く）		4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内 （出穂期以降は1回以内）	散布
トップジンM水和剤		1000～1500倍	60～150L/10a	収穫30日前まで		散布
トップジンMゾル		8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで		無人航空機による散布
トリフミン水和剤	麦類	1000～2000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布
ストロビーフロアブル	麦類（小麦を除く）	2000～3000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布
チルト乳剤25	大麦	1000～2000倍	60～150L/10a	収穫21日前まで	1回以内	散布
		8倍	800ml/10a	収穫21日前まで	1回以内	無人ヘリコプターによる散布
ワークアップ粉剤DL	麦類		3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
ワークアップフロアブル	大麦	10～16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内	無人ヘリコプターによる散布
シルバキュアフロアブル	大麦	2000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布
		16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内	無人ヘリコプターによる散布

☆最新の農薬登録情報(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt1lp301.jsp>)を確認して下さい。